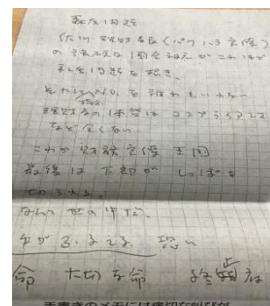


手書きメモ痛切な叫び

写真は大阪日日新聞 3 月 18 日に掲載された、森友問題で自殺した近畿財務局職員の「手書きメモ」。相沢冬樹編集局長・記者の記事を抜粋して紹介したい。

「これ、見たいですね？」一。そう語り掛けたのは、財務省近畿財務局管財部の上席国有財産管理官だった赤木俊夫さんの妻、昌子さん（仮名）。命を絶った俊夫さんが何かを書きのこしたようだという話は当時からあったが、厳しい情報統制が敷かれ真相は闇に隠れたまま世間から忘れられていった。



それから 1 年 4 カ月。3 月 7 日に俊夫さんの 3 回忌を迎えた。この間、財務省と近畿財務局は誠意のない態度を繰り返した。亡き夫の職場を大切に思っていた昌子さんの気持ちも大きく変化し、俊夫さんの「手記」の公開を決意。俊夫さんと昌子さんが味わった苦しみと悲しみを、多くの人に知っていただきたい。

昌子さんは自宅の部屋の窓を指しながら語った。「あそこの手すりにひもをかけて首をつっていたんです。普通ならまず 119 番しますよね。でも私は『財務局に殺された』って思いがあるから、つい 110 番に電話しちゃたんです」

俊夫さんは手書きで次のようなメモも残している。

森友問題

佐川理財局長（パワハラ官僚）の強硬な国会対応がこれほど社会問題を招き、それに NO を誰もいわない

これが財務官僚王国

最後は下部がしっぽを切られる

なんて世の中だ、手がふるえる、怖い

命 大切な命 終止符

俊夫さんは 1963 年生まれ、岡山県出身。高校卒業後、当時の国鉄に就職したが、87 年の分割民営化で中国財務局に採用され、鳥取財務事務所に勤めた。その時、鳥取の地元紙、日本海新聞を愛読していたそうだ。

その後、立命館大の夜間コースに進学するため近畿財務局京都財務事務所に移り、以後は関西各地で勤務した。口ぐせは「ぼくの契約相手は国民です」。

そんなまじめな公務員がなぜ死に追い込まれたのか。昌子さんは真相を究明するため、裁判を起こす。被告となる佐川氏と国は、どう応じるだろうか。責任があると名指された官僚たちは？ 彼らを統率する責任がある安倍首相と麻生財務大臣は？ そして、そもそもの発端となった森友学園の小学校の名誉校長だった安倍昭恵首相夫人は、訴えをどう受け止めるだろうか。

(2020 年 3 月 20 日)